

多文化共生ひろば

問合せ 秘書広報課 多文化共生・交流係
(☎ 27-8240)

このコーナーでは、宇佐市の外国人住民や支援者、市の取り組みなどについてご紹介します。みんなが暮らしやすい多文化共生社会を作るためにまずは知ることから始めませんか。

私は約5年間日本に住んでいます。初めて家族と離れて暮らす長い時間です。宇佐市は新鮮な空気ときれいな景色があり、友好的で素敵な人たちがいます。日本の生活は交通、文化など驚きの連続です。日本では道を歩いていても車のクラクションを聞くことはありません。すべての地域に電車が接続していて、とても便利です。歩道にはごみが全然ありません。日本人は自然や景観を大事にし、保護活動にも熱心だと感じます。コンビニは24時間営業で、私の想像を超える多くの商品を売っていて、値段も高くありません。私は日本人はとても行動が早いと感じます。決められた時間よりも常に早く行動し、ファストフードを好み、話すのも早いです。仕事も同じで、予定の時間の中でより良い製品を作り、間違いは少なく決して品質を無視したりしません。日本に来て良かったです。



お便りをくれた方

名前 ファム ティ ハー
PHAM THI HA さん 国籍 ベトナム
住所 森山 職場 (株)豊食



心も体も
地域も元気に!
食育レシピ
recipe

残った料理をリメイク! 手早くおいしいエコレシピ

\ check! /



問合せ / 健康課 健康増進係 (☎ 27-8137)

春は新生活が始まり、何かと慌ただしい季節。毎日の献立を考え、料理するのは大変!今回は、残りがちなスープを手軽におしゃれに変身させるレシピをご紹介します。お吸い物や鍋の残り汁でも代用できます。残さず食べること、エコ活動にもなります。



レシピ引用:クックパッド(株)「消費者庁のキッチン」

残ったスープで和風パエリア

材料(4人分)

- ・米 2合
- ・しめじ 100g
- ・ピーマン 1個
- ・冷凍の赤魚 4切れ
(赤身魚や白身魚も代用可)
- ・塩 小さじ1
- ・コショウ 少々
- ・オリーブオイル 大さじ1
- ・にんにく(チューブ) 10g
- ・残ったスープ 500ml
- ・パセリ 適量



- 【1】米を軽く洗ってザルにあげ、水を切る。しめじは小分けにして、ピーマンは種を取り輪切りにする。
- 【2】魚に塩、コショウをふり、魚焼き用ホイルを敷いたフライパンで焼き、両面に焼き色を付けて皿に移す。
- 【3】フライパンでオリーブオイル、にんにくを炒める。香りが立ったらしめじを加え、火が通ったら皿に移す。
- 【4】フライパンに残っている汁に米を加え、軽く炒める。
- 【5】残ったスープを加え、魚、しめじ、ピーマンを並べる。ふたをして強火で沸騰させ、中火で5分、弱火で10分炊く。火を止めて10分ほど蒸らし、パセリをふったら完成。

空襲と特攻 その2

宇佐市長 是永修治

昭和20年3月18日の空襲により被害を受けた宇佐海軍航空隊（宇佐空）でしたが、26日には特攻訓練を終え、艦上攻撃機、艦上爆撃機による特攻隊が編成されます。宇佐八幡宮にちなみ「八幡護皇隊」と命名された宇佐空特攻隊は、4月2日、第一次の艦攻隊が申良基地へ、艦爆隊が第一国分基地へ発進し、6日、沖繩に出撃。以降、5月11日までに6次、9隊が特攻出撃し、154人が戦死しました。

令和4年12月、裏千家15代家元、御年99歳の千玄室氏の講演会が開催され、高校生など約800人が耳を傾けました。千氏は昭和18年、学徒出陣により海軍に入隊、特攻隊員となり、同期が宇佐空から飛び立っています。今でも仲間の声が聞こえるという千氏は「お茶を飲んだ後、みんなと立ち上がって故郷に向かって『お母さん』と叫んだ」。また、仲が良かった旗生良景少尉から「もし生きて帰ったら、お前のところの茶室で茶を飲ませてくれるか」と言い残されたことを紹介し「争いごとのない世の中を足元から作ってほしい」と訴えました。

講演後、宇佐空から特攻戦死した154人の名前と出身地が刻まれた碑（城井一号掩体壕の隣）を訪れた千氏は、涙とともに戦友と語り合っておられました。余談ですが、水戸黄門役で有名な西村晃氏も同期でした。次回へ続く。



出撃前の八幡護皇隊

平和ミュージアム（仮称）開館に向けて
kioku wo tsunagu

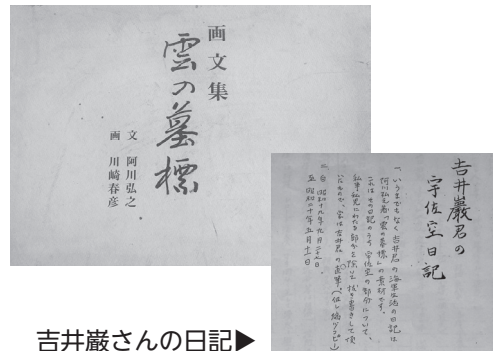
記憶をつなぐ

このコーナーでは、戦後75年以上経って体験者の声が薄れゆく中、戦争の実像を伝えるためにこれまでで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

58 『雲の墓標』と「宇佐空日記」（複製）

『雲の墓標』（阿川弘之著）は、主人公・吉野次郎の学徒出陣による海軍入隊から特攻戦死までを日記風に描いた小説です。特攻隊員となった学徒兵の揺れ動く心情がつぶさに描かれています。

実在した吉井巖さんによる日記をもとにしており、その日記には昭和19年9月から翌年5月までの宇佐海軍航空隊の様子も描かれています。



吉井巖さんの日記▶

■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎27-8200）